

## 時代背景と舞台を楽しむ

正直なところ「やっぱり古いなあ」という感じや、「あれっ!？」と思う個所は結構あったのですが、何せ70年以上前、トーキーが生まれて10年そこそこの時代の映画です。細かいところは気にしないで、てんこ盛りのユーモアと謎解き、それに少しラブ・ロマンスをミックスしたヒッチコック監督の英国時代の代表作を楽しみました。

とても後味が良かったです。この作品鑑賞後、頭をもたげた調べぐせの結果を二つ紹介します。

◆この作品が、製作から日本公開まで38年かかったのは？  
<背景 1> この作品が製作された翌年、第2次大戦が勃発しています。日本でも外国映画の輸入制限が厳しくなり、1941年には全面的に禁止されてしまいました。

<背景 2> 『バルカン超特急』製作後、ヒッチコック監督は米国の大物プロデューサー・セルズニックに請われてハリウッドに渡り、1940年から1945年にかけて、立てつづけに多数の話題作を製作。最初の作品「レベッカ」がアカデミー作品賞を獲得します。以後ヒッチコックの活躍の場はハリウッドに移りました。

<背景 3> 終戦の翌年1946年から洋画の輸入が再開され、ヒッチコック作品も順次公開されていきましたが、配給会社のヒッチコックについての関心はハリウッド作品に限られており、『バルカン超特急』は輸入対象としては忘れ去られていきました。

<背景 4> 時は移り1972年、映画評論、テレビ解説などで有名だった水野晴郎さんが、自身の会社「インターナショナル・プロモーション社(IP社)」を立上げ、事業の一環として「さまざまな事情で日本で公開されなかった名作・話題作の輸入・公開」を開始します。そして1976年遂に『バルカン超特急』が38年振りに日の目を見ることになります。

IP社の網にかかった作品群の中で、水野さんが特にこだわった作品が『バルカン超特急』だったようで、この邦題の名付け親も彼とか。ちなみにヒッチコックがつけた映画の元タイトルは「The Lady Vanishes(淑女消滅)」。この映画の原作推理小説の題名は「The Wheel Spins(車輪は回る)」。映画の日本公開後、2003年小学館から翻訳・出版された小説の題名は「バルカン超特急 消えた女」。

## ◆この作品の舞台は？

残念ながらこの作品の原作小説は読んでいないので、原作者エセル・リナ・ホワイトもヒッチコックも当然熟知していたと思われる1934年発表のアガサ・クリスティの推理小説「オリエン特急殺人事件」を頭に思い浮かべた

り、映画の中に出てくる地名を地図上でチェックしたりしながら推理した私の結論は・・・。

①この作品の列車は、西ヨーロッパと中東を結ぶ「オリエン特急行」群のどれかである。

②雪崩で登場人物が足止めを食ったホテルはヨーロッパ中部の山村。例えばオーストリア・アルプス周辺の片田舎のリゾートホテルである。

③クライマックスの銃撃戦の場所はスイス、ドイツ、フランスの国境が交差するバーゼルに近いドイツ領である。

④この映画の終着駅はロンドンのヴィクトリア駅である。邦題の「バルカン超特急」の印象が強いので、何となくこの作品の舞台をバルカン半島のどこかと考えがちですが、そうでもないようです。勿論この物語は架空のものであり、正解はありませんが。なお、終盤近くのヴィクトリア駅のシーンでヒッチコック監督が澄まし顔でカメオ出演しています。ほんの一瞬ですが。 K.M.

## 『バルカン超特急』リメイク決定!?

『『バルカン超特急』をリメイクするとしたら?』で、ちょっと遊んでみました。超豪華キャストで! e3

監督：ダニー・бойル (スラムドッグ\$ミリオネア)

出演：

アメリカ富豪の娘アイリス  
アマンダ・セイフライド  
(TIME/タイム)



イギリスの音楽学者ギルバート  
ジェイミー・ベル  
(リトル・ダンサー)



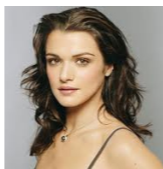
ドイツ人医師 ハーツ  
クリストフ・ヴァルツ  
(イングリシアス・バスターズ)



イギリス老婦人 フロイ  
ジュディ・デンチ  
(『007』シリーズ)



イギリス人弁護士  
コリン・ファース  
(英国王のスピーチ)



有閑マダム

レイチェル・ワイズ  
(ナイロビの蜂)

二人のクリケットマニア

ロバート・ダウニー・Jr

ジュード・ロウ

(シャーロック・ホームズ)



2012.4.19  
vol.17

## 『バルカン超特急』

シネマ・ド・りぶらの  
コラム・ド・シネマ

## 監督とバルカンについて

「バルカン超特急」は、ミステリのネタ自体はそんなに驚くような意外性はありませんが、あちらこちらへと、観客の心理を自由に操った上でストーリーを展開し、観るものを映画の世界に引き込むのはさすがヒッチコック監督だと思いました。それでも、ラストの荒唐無稽なシーンには苦笑しました。

監督とバルカンについて調べてみました。監督アルフレッド・ヒッチコックは1899年(明治32年)イギリス・ロンドンにて出生。1938年「バルカン超特急」をイギリスにて製作し、その後1939年以後アメリカ・ハリウッドで活躍しています。1940年に「レベッカ」でアカデミー作品賞を受賞。有名な作品としては、1954年「ダイヤルMを廻せ!」「裏窓」、1956年「知りすぎていた男」、1960年「サイコ」、1963年「鳥」などがあり、サスペンス映画の神様とも称される偉大な監督です。1980年エリザベス2世よりナイトの称号を授けられたが、4ヶ月後の1980年4月満80歳にて没しています。

映画では架空の国パンドリカからイギリスへの帰国途上の列車内の事件として描かれているが、「バルカン超特急」は実在しておりません。バルカンはオスマン(トルコ)語で「山脈」を意味し、バルカン半島の所属国・地域としてギリシャ、アルバニア、マケドニア、セルビア、モンテネグロ、クロアチア、ボスニア、ブルガリア、コソボ、トルコ等があり、ヨーロッパとアジアの結節点に位置し交通の要(かなめ)であり、商業活動そして軍事的にも重要な半島です。ヨーロッパ列強の思惑もあってバルカンは「ヨーロッパの火薬庫」として呼ばれています(百科事典より)。「バルカン超特急」は、フランス(パリ)~コンスタンチ

ノーブル(イスタンブール)の6ヶ国を横断した「オリエン特急行」がモデルであったかと思いました。

第一次世界大戦中、ドイツはオスマン帝国と同盟関係になったこともあって、一時ベルリンからイスタンブールへ直通する「バルカン列車」を走らせていました。しかし、第一次世界大戦のドイツ敗戦で「バルカン列車」は中止されました。 S.N

## 「バルカン超特急」の結末は？

ヒッチコックは1939年にアメリカへ移籍することが決まり、イギリスでの最後の作品として、エセル・リナ・ホワイト原作の「The Wheel Spins」の脚本が選ばれた。当時、この作品は別の作品として撮影がはじまっていたが、トラブルでお蔵入りとなっていました。ヒッチコックはその脚本を手直しして、'38年末に「The Lady Vanishes(女が消えた)」として無事完成をし、これがヒッチコックのイギリスでの最後の作品となりました。そして、38年後、「バルカン超特急」として日本公開されました。

原作でもこの作品の舞台は明確になっていませんが、主人公の女性が、美しい山と湖のある某避暑地からイギリスへの帰国途中のミステリー。作中の特急は避暑地からブカレスト、ザグレブから来た特急にイタリアのトリエステで乗換をしてミラノ、バーゼル、カレーを経て、イギリスへ向かうとあり、事件は某避暑地からトリエステ間の車中で起きます。

映画「バルカン超特急」の結末は、映画を見ていただくこととして、原作での結末はどうなるでしょうか？これも、映画とは一味異なる結末をお楽しみください。中央図書館に小学館発行の「バルカン超特急」がありますので、ぜひお読みください。 au

『バルカン超特急』  
フィルムデータ

原 題：The Lady Vanishes  
製作年：1938年  
制作国：イギリス  
上映時間：97分 モノクロ

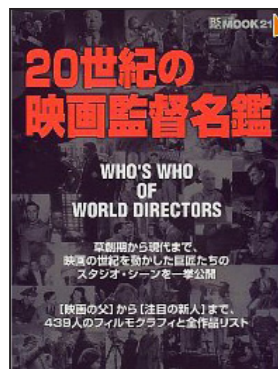
監督：アルフレッド・ヒッチコック 製作：エドワード・ブラック  
原作：エセル・リナ・ホワイト 音楽：ルイス・レヴィ  
脚本：シドニー・ギリアット、フランク・ローンダー  
出演：マーガレット・ロックウッド、マイケル・レッドグレーヴ、  
メイ・ウィッチィ



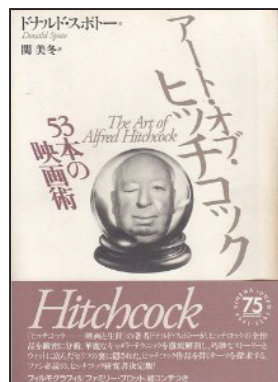
りぶらサポータープロジェクト 「シネマ・ド・りぶら」  
『バルカン超特急』 関連図書案内  
& DVD

ヒッチコック

映画評



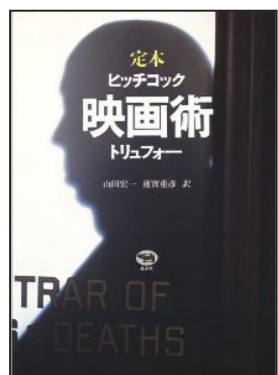
N 778.220 共同通信社  
『世紀の映画監督名鑑 (Mook21)』



778 ドナルド・スポーター キネマ旬報社  
『アート・オブ・ヒッチコック  
53本の映画術』



W 778.2 ヒッチコック 晶文社  
『映画術』



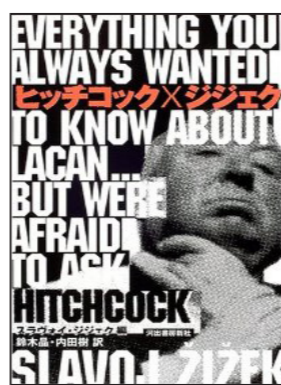
N 778.2 『ヒッチコック映画自身』  
アルフレッド・ヒッチコック 筑摩書房



N 778.2 近代映画社  
『アルフレッド・ヒッチコックを楽しむ』



N 778.2 『ヒッチコック×ジジエク』  
スラヴォイ・ジジエク 河出書房新社



N 778.2 橋本 勝 キネマ旬報社  
『ヒッチコック・ゲーム  
ようこそヒッチコック映画館へ』

N 778.2 山田 宏一 草思社  
『ヒッチコックに進路を取れ』



N 778.2 植草 甚一 晶文社  
『ヒッチコック万歳!』



N 778.2 野沢 一馬 シネマハウス  
『ヒッチコック完全読破』

778 ドナルド・スポーター 早川書房  
『ヒッチコック 映画と生涯 上・下』

I 778.0 内田 樹 文春新書  
『うぼほいシネクラブ 街場の映画論』

I 778.2 双葉 十三郎 文春新書  
『外国映画ハラハラドキドキ ぼくの500本』

N 778.0 高橋 いさを 論創社  
『銀幕横断超特急 乗り物映画コレクション』

778 タニア・モドゥレスキー 青土社  
『知りすぎた女たち  
—ヒッチコック映画とフェミニズム』



209.7 毎日新聞社 (毎日ムック)  
『第三帝国の野望 1930-1939』

209.6 宮崎 正勝 青春出版社  
『鉄道地図から読みとく秘密の世界史』



原作

933.7 小学館  
エセル・リナ・ホワイト  
『バルカン超特急  
消えた女』

クリケット

時代背景

780 友添 秀則 学研  
『世界のスポーツ 国際理解に  
役立つ! 3 ヨーロッパ』

